

# 講義概要

---

## 正課科目(人間教育学部科目)

2025年1月24日時点の情報です。

曜日時限順に掲載しております。

[https://www.andrew.ac.jp/extension-center/society\\_auditor/#anc03](https://www.andrew.ac.jp/extension-center/society_auditor/#anc03)

※【評価方法】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

科目名	現代メディアとジャーナリズム <春>	曜日時限	月 1
教員名	宮坂 政宏	講義コード	Z999512478
到達目標	<p>今日のジャーナリズムとは何か、様々なメディア・マスコミの現状、課題を通して学ぶ。</p> <p>同時にジャーナリズムの担い手であるジャーナリストが備えている諸手法への理解と初歩的な技能の修得を通じ、高度で複雑な情報化社会で情報の主体的な受け手(情報の価値理解)、良識ある批判者(客観的分析者)、活用者(表現・発信を通し社会=我々の世界の課題解決を図る)となる実践的素養の基礎を身に着ける。(主としてディプロマポリシー1~3、カリキュラムポリシー1~3に対応)</p>		
授業概要	<p>前半の講義ではジャーナリズムとは何か、具体的に紹介するとともに、ジャーナリスト的な者の見方・考え方、表現など実践的な授業を展開します。</p> <p>授業全般を通し、情報の価値、今起こりつつある事象の課題発見力、課題分析力設定力、自ら設定した課題を解決するための取材方法、取材で得た情報の編集、記述・表現、マスメディアに乗せた発信など一連のプロセスを学ぶことで、情報源(事象)にアクセス(情報選択力)し、課題を発見する力、情報・事象の分析力、情報編集力、表現力・発信力の基礎をつけるとともに、情報発信による社会(我々の世界)への訴求力、課題を主体的に解決する力の基礎を習得する。</p>		
授業計画	<p>第1回 講義概要(講義の目的、方法、評価)</p> <p>第2回 ジャーナリストの特性についてアイスブレイクを交え講義のプレビューを行います。</p> <p>第3回 ジャーナリズムの定義</p> <p>昔から様々な定義がされてきた。それらを紹介するとともに、具体的なニュース、番組などを通し確認。</p> <p>第4回 ジャーナリズムの担い手、ジャーナリスト像1</p> <p>ジャーナリストとはどのような人たちで、どんな仕事に携わっているのか。</p> <p>第5回 ジャーナリズムのフィールド、メディア論1</p> <p>TV、新聞、WEB、SNS などメディアの種類、特徴について。</p> <p>第6回 ジャーナリズムのフィールド、メディア論2:ピュリッツ賞受賞作から考え masu. る。</p> <p>第7回 視聴者に分かりやすく伝える方法について、実際にプレゼンを作成してみましょう。</p> <p>あなた自身がメディアでジャーナリストです。</p> <p>第8回 ジャーナリズムの社会的な位置づけ、法的な位置づけ</p> <p>プロパガンダか、権力の監視か、国民の代弁者か。表現の自由、著作権にも触れる</p> <p>第9回 受け手から見たメディアについて解説、フリートーク</p> <p>様々な調査から、どんな人たちがどんなメディアを利用しているのか、どんなジャンルの情報を利用しているのか、メディアに対する信頼度などについてみてみることにします</p> <p>第10回 SNS を中心としたメディアの危険性について</p> <p>情報メディアとしての利用者が多い SNS の危険性、課題について</p> <p>第11回 メディアの課題</p> <p>マスメディの誤報、捏造、WEB 上のフェイクニュースなど、ジャーナリズムに反する事象が後を絶たない。商業的ジャーナリズム、ブラックジャーナリズム、フェイクニュースなど、ジャーナリズムが抱える問題点を批判的に読み解く。</p> <p>第12回 実際のニュースの作成</p> <p>「最近疑問に思ったこと」についてグループワークします。</p> <p>①取り上げたテーマ</p> <p>②どんな内容(概要)?</p> <p>③それが社会的(人間にとって)にどんな意義、価値があるのかについてまとめます。</p> <p>第13回 前回のまとめのプレゼン・セッション用パワポを協働で作成する。</p> <p>第14回 プレゼン(続き)セッションに基づく討議、講評</p> <p>記者の仕事</p> <p>インタビュー記事の作り方</p> <p>実際にインタビューを体験</p> <p>第15回 まとめジャーナリズム・ジャーナリストとは</p> <p>ジャーナリストとして特に大切な こと</p> <p>ジャーナリズムの基本:ものを見る目「心の目」</p>		
授業方法	講義式による		
アクティブラーニングの視点	調べ学習、ワークシート(企画書、取材計画書など)の作成、協働学習(授業中の討議、グループワーク等)、取材・調査の報告、セッション用パワーポイントの作成・プレゼンテーションを通じて主体的で深い学びにつなげる。		
授業外学習	講義内容に合わせ事前課題、復習課題を出すことがある。		
教科書	教科書は指定しない。必要な資料は随時配布する。		
テキスト	必要に応じて授業中に紹介する。		
評価方法	S=出席に加え以下の出席点が 4.5 以上。A=出席に加え以下の出席点が 4 以上。B=出席に加え以下の出席点が 4~3.5 以上。C=出席点 3.5 以下。規定回数以上の欠席は単位を認めません。出席点:出席中授業での討議等の場面での参加度・発言の適格性(30%)、授業内容に関する知識理解(確認アンケート 40%)、ジャーナリズム的手法を用いた初歩的視点・技能の修得(編集企画、取材、記事 30%)、各観点について 5 段階評定する。		
実務経験のある教員による授業	新聞記者、教育関連週刊誌記者・編集長、教育関連出版社役員などメディアでの経験が深い教員が教職を目指す学生に必要な時事的な見方・考え方、現場で役立つジャーナリストの手法を講義します。		

※【評価方法】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

科目名	人権論 <春>	曜日時限	月 4
教員名	須郷 紳弘	講義コード	Z999512682
到達目標	<p>*人権尊重などに係わる基本的な考え方を習得する。                  *身近な事例等を通して理解を深める。                  *倫理、人権をテーマとする学びを通して、社会人として求められる人間力を高めていく。</p>		
授業概要	<p>本授業では、人権等に関する基本的な考え方を学ぶ。また、意思決定支援を軸に生命倫理などの各種事例を検証し、社会人としての必要な資質を養う。また、グループ討議などの活動を通して、自己理解、他者理解を深めていく。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、障害者の権利条約と成年後見制度</li> <li>2. 意思決定支援の方法</li> <li>3. 意思決定を拒否する人への支援</li> <li>4. 愚行権と意思決定支援</li> <li>5. 臓器移植と意思決定支援(1)</li> <li>6. 臓器移植と意思決定支援(2)</li> <li>7. 医学の倫理(治験など)</li> <li>8. 出生前診断などについて考える</li> <li>9. 人間とは何かについて考える(パーソン論など)</li> <li>10. 高齢者の人権について考える(認知症など)</li> <li>11. インフォームド・コンセントについて考える</li> <li>12. 人権、倫理などをテーマとした教材を研究する(1)</li> <li>13. 人権、倫理などをテーマとした教材を研究する(2)</li> <li>14. 人権、倫理などをテーマとした教材を研究する(3)</li> <li>15. 人権、倫理などをテーマとした教材を研究する(4)、まとめ</li> </ol>		
授業方法	講義、事例検討。グループ討議なども組み入れる予定。		
アクティブ ラーニングの視点	できるだけ、授業の中で、個々人の意見を発言してもらう機会を設けるとともに、可能な範囲で、少人数のグループを組みディスカッションなどを行う予定		
授業外学習	毎授業前に、当該授業回のテーマについて2時間以上の準備学習を行うこと。 また、毎授業後に、当該授業回で学習した内容について2時間以上復習すること		
教科書	授業中に適宜紹介する		
テキスト	古橋ツツ子監修、和田幸司編著 2021 年『人権論の教科書』ミネルヴァ書房		
評価方法	<p>授業への参加度(20%) 授業中に毎回作成してもらったレポート(80%)                  授業への参加度は、個々人の発言内容、グループ討議の参加態度などを評価する。                  レポートは、毎授業に作成してもらった予定。内容とともに、誤字脱字がないか等についても評価する。文字数については、授業ごとに指定する。</p>		
実務経験のある 教員による授業	障害児・者施設での勤務経験を有する者がその経験を活かして人権、倫理等の概要について解説する		

科目名	心理学 11<春>	曜日時限	水 2
教員名	永井 明子	講義コード	Z999512648
到達目標	<p>「出会い」と「かかわり」を通して、「これから」の大学生活や社会生活を有意義に生きるために必要な心構えや心理学の知識を身につけることで、                  ①自分を振り返ることができるようになる。                  ②学んだ知識や心構えを他者とのコミュニケーションに活用することができるようになる。</p>		
授業概要	<p>目に見えない「心」の仕組みを解き明かそうと、心理学という学問ではこれまでに様々な研究が行われてきた。この講義ではそのような研究を参考にして、自分自身の見えない「心」を見つめてみる。自己と向き合い、人とかかわり、社会との出会いを考えることで自分を再発見し、自分の未来を自分の力で切り開いていく。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーションとグループ作り</li> <li>2. パーソナリティをみる</li> <li>3. 心のなりたち</li> <li>4. 無意識のはたらき</li> <li>5. 自己をみつめる</li> <li>6. 自己をつかむ</li> <li>7. 私の子ども時代</li> <li>8. 対人関係をふりかえる</li> <li>9. 対人態度を知る</li> <li>10. 人とかかわり方</li> <li>11. 私の友人関係</li> <li>12. 社会とかかわりと帰属意識</li> <li>13. 想像力と創造力</li> <li>14. 職業選択</li> <li>15. 自分の将来イメージ</li> </ol>		
授業方法	<p>演習形式で行い、毎回の授業内容についてグループ・ディスカッションや振り返りを行う。                  第1回目の授業で、活動グループを作り、そのグループで15回の授業を受講していくので、必ず第1回目の授業に出席すること。</p>		
アクティブ ラーニングの視点	<p>対話を通して自分を知ることが授業の大きな目的になるため、事前に、教科書記載の心理テストを実施し、結果について予習課題を提出していることが必須である。また授業中には自分の結果を振り返るだけでなく、この授業の為に編成された固定グループのメンバーとその振り返りをシェアしディスカッションすることになる。さらには自分と他のメンバーのシェアやディスカッションの内容を比べる中で見えてきたものを復習課題として表出することも求められる。</p>		
授業外学習	毎回、予習課題と復習課題をマイクロソフト Foams で提出する。予習課題ができていない場合は授業に参加することが難しくなる。		
テキスト	川瀬正裕・松本真理子・丹治光浩著『これからを生きる心理学「出会い」と「かかわり」のワークブック』ナカニシヤ出版、2008年		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	<p>授業の取り組み姿勢を重視する。毎回の課題への取り組みや授業への積極的な参加がない場合はその回の得点は0点とする。                  授業外学習として、予習課題40%、復習課題50%(授業への参加度10%を含む)</p>		

※【評価方法】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

科目名	現代政治と経済 <春>	曜日時限	水 5
教員名	吉井 武史	講義コード	Z999512393
到達目標	社会人基礎力としての「政治」および「経済」に関する基礎的教養を習得する。		
授業概要	初頭・中等教育学習課程における「政治」「経済」に関する内容を抽出し、実践的教養を習得することを目的とする。		
授業計画	1 法と憲法 2 大日本帝国憲法 3 日本国憲法の制定 4 内閣 5 国会 6 裁判所 7 地方自治 8 防衛問題 9 日本の領土問題 10 アメリカ合衆国の政治 11 ヨーロッパ主要国の政治 12 国際連合 13 EU 14 経済学の歴史 15 第二次世界大戦後の国際経済体制 期末試験		
授業方法	講義と演習		
アクティブ ラーニングの視点	毎時間、インターネットを利用して課題の解答を見出す演習を実施する。		
授業外学習	新聞等を通じて、現在進行形の政治・経済の状況を把握する事を心がける必要がある。		
テキスト	授業中に随時資料を配布、もしくはウェブクラスにアップする。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	期末試験 70%、小テスト 30%。		
実務経験のある 教員による授業			

科目名	生涯スポーツ論 11<春>	曜日時限	木 2
教員名	上田 真也	講義コード	Z999512497
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なスポーツ活動を通じて、自分の健康の維持・増進の方法について学ぶ。</li> <li>・運動の必要性について、体感する。</li> <li>・生涯にわたってスポーツを楽しむ意義について、理解を深める。</li> </ul>		
授業概要	スポーツを通じて、性別、年齢を超えた“楽しみ”や“遊び”を感じることは重要なことである。生涯を通じて身体を動かすことの喜びや爽快感、達成感を味わえ、コミュニケーションづくりや心身のバランス等をもたらしてくれる。それが生涯スポーツの魅力といえる。本講義では、さまざまな運動やスポーツを通じ、生涯にわたって健康を維持・増進していくことの重要性を感じ取ってもらいたい。		
授業計画	第1回 本講義の目的、授業の進め方について 第2回 発育発達期の運動プログラム(1)(乳幼児) 第3回 発育発達期の運動プログラム(2)(小学校) 第4回 発育発達期の運動プログラム(3)(中学・高等学校) 第5回 社会とスポーツ(1) 第6回 社会とスポーツ(2) 第7回 中高年者とスポーツ(1) 第8回 中高年者とスポーツ(1) 第9回 女性とスポーツ(1) 第10回 女性とスポーツ(2) 第11回 障害者とスポーツ(1) 第12回 障害者とスポーツ(2) 第13回 介護予防と運動(1) 第14回 介護予防と運動(2) 第15回 生涯にわたる運動づくり		
授業方法	講義形式で行う。		
アクティブ ラーニングの視点	ICT 機器を用いた情報収集を行うとともに、収集した情報についてのグループ討議を行う。		
授業外学習	予習・復習を行うこと。 また、生涯スポーツについて日頃から興味関心を持つ。		
テキスト	適宜、資料を配布する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業態度…10% ミニレポート(毎時提出する。授業内容に対する理解度を評価する)…20% テスト…70%		
実務経験のある 教員による授業			

※【評価方法】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

科目名	生涯スポーツ論 12<春>	曜日時限	木 3
教員名	上田 真也	講義コード	Z999512508
到達目標	<p>・様々なスポーツ活動を通じて、自分の健康の維持・増進の方法について学ぶ。</p> <p>・運動の必要性について、体感する。</p> <p>・生涯にわたってスポーツを楽しむ意義について、理解を深める。</p>		
授業概要	<p>スポーツを通じて、性別、年齢を超えた“楽しみ”や“遊び”を感じることは重要なことである。生涯を通じて身体を動かすことの喜びや爽快感、達成感を味わえ、コミュニケーションづくりや心身のバランス等をもたらしてくれる。それが生涯スポーツの魅力といえる。本講義では、さまざまな運動やスポーツを通じ、生涯にわたって健康を維持・増進していくことの重要性を感じ取ってもらいたい。</p>		
授業計画	<p>第1回 本講義の目的、授業の進め方について</p> <p>第2回 発育発達期の運動プログラム(1)(乳幼児)</p> <p>第3回 発育発達期の運動プログラム(2)(小学校)</p> <p>第4回 発育発達期の運動プログラム(3)(中学・高等学校)</p> <p>第5回 社会とスポーツ(1)</p> <p>第6回 社会とスポーツ(2)</p> <p>第7回 中高年者とスポーツ(1)</p> <p>第8回 中高年者とスポーツ(1)</p> <p>第9回 女性とスポーツ(1)</p> <p>第10回 女性とスポーツ(2)</p> <p>第11回 障害者とスポーツ(1)</p> <p>第12回 障害者とスポーツ(2)</p> <p>第13回 介護予防と運動(1)</p> <p>第14回 介護予防と運動(2)</p> <p>第15回 生涯にわたる運動づくり</p>		
授業方法	講義形式で行う。		
アクティブ ラーニングの視点	ICT 機器を用いた情報収集を行うとともに、収集した情報についてのグループ討議を行う。		
授業外学習	予習・復習を行うこと。 また、生涯スポーツについて日頃から興味関心を持つ。		
テキスト	適宜、資料を配布する。		
参考書	適宜、紹介する。		
評価方法	授業態度…10% ミニレポート(毎時提出する。授業内容に対する理解度を評価する)…20% テスト…70%		
実務経験のある 教員による授業			

科目名	心理学 12<春>	曜日時限	金 2
教員名	重信 あゆみ	講義コード	Z999512665
到達目標	<p>「出会い」と「かかわり」を通して、「これから」の大学生活や社会生活を有意義に生きるために必要な心構えや心理学の知識を身につけることで、</p> <p>①自分を振り返ることができるようになる。</p> <p>②学んだ知識や心構えを他者とのコミュニケーションに活用することができるようになる。</p>		
授業概要	<p>目に見えない「心」の仕組みを解き明かそうと、心理学という学問ではこれまでに様々な研究が行われてきた。この講義ではそのような研究を参考にして、自身の見えない「心」を見つめてみる。自己と向き合い、人とのかかわり、社会との出会いを考えることで自分を再発見し、自分の未来を自分の力で切り開いていく。</p>		
授業計画	<p>1. オリエンテーションと心理学の概要</p> <p>2. パーソナリティを見る</p> <p>3. 心のなりたち</p> <p>4. 無意識のはたらき</p> <p>5. 自己をみつめる</p> <p>6. 自己をつかむ</p> <p>7. 私の子ども時代・小テスト</p> <p>8. 対人関係を振り返る</p> <p>9. 対人態度を知る</p> <p>10. 人とのかかわり方</p> <p>11. 私の友人関係</p> <p>12. 社会とのかかわりと帰属意識・小テスト</p> <p>13. 想像力と創造力</p> <p>14. 職業選択</p> <p>15. 自分の将来のイメージ・小テスト</p>		
授業方法	<p>演習形式で行い、毎回の授業内容についてグループ・ディスカッションや振り返りを行う。</p> <p>グループを作り、グループ内で心理テストを実施し、分析・フィードバックを行う。</p>		
アクティブ ラーニングの視点	<p>対話を通して自分を知ることが授業の大きな目的になるため、事前に授業の概要を確認しておくことが必須である。また、授業中には自分の結果を振り返るだけでなく、グループのメンバーとその振り返りをシェアする。さらには、自分と他のメンバーを比べる中で見えてきたものをミニレポートとして表出することも求められる。</p>		
授業外学習	課題内容を指示する。課題を提出することで参加とみなす。		
テキスト	川瀬正裕・松本真理子・丹治光浩著『これからを生きる心理学「出会い」と「かかわり」のワークブック』ナカニシヤ出版, 2008年		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	<p>授業の取り組み姿勢を重視する。毎かの課題への取り組みや授業への積極的な参加がない場合はその回の得点は0点とする。</p> <p>授業外学習 40%・授業への参加度(振り返りレポート)35%・小テスト 25%</p>		
実務経験のある 教員による授業			

※【評価方法】欄は学生の評価に関する内容であり、社会人聴講生は出欠や試験・レポート等の課題提出は原則求めませんが、参考に掲載しております。

科目名	現代社会と科学技術 <春>	曜日時限	金 4
教員名	柴 恭史	講義コード	Z999512427
到達目標	<p>本科目においては、現代社会において取り上げられることの多い科学に関する話題について、その基本的な内容を理解し、社会の問題意識を認識できるようになることを目標とする。</p> <p>くわえて、そのための技能として、以下の能力を習得することを目標とする。</p> <p>①大学生に求められる科学的知見の検索・収集方法を理解し、自ら行うことができる。</p> <p>②それらの知見の適切な参照方法・引用のマナーを理解している。</p> <p>③収集した情報・知見をもとに、(他者と協働して)自らの意見をまとめ主張することができる。</p>		
授業概要	<p>本科目では、現在の科学において、特に社会的に話題になりやすいいくつかのテーマについて取り上げ、それらの基本的な知識と論点について解説する。</p> <p>社会的に話題になりやすい問題とは、単に科学的な知識だけでは解決できない問題でもある。それらはときに倫理的な側面や経済的な側面から、(クローン技術のように)科学技術として実行できるか以上に人として実行してよいのかが問題となる。したがって、科学的な話題・ニュース等を理解するうえでは、単なる知識だけでなく、そうした社会の価値観等を理解しておくことも重要である。</p> <p>この授業では、科学的知識を解説するだけでなく、上記のような価値観の問題まで含めてディスカッションを深めたい。</p> <p>また、こうしたディスカッションを含め、大学生としての学習活動・研究活動を進めるにあたっては、適切に情報技術(IT)を活用しながら情報を収集し活用することが求められる。</p> <p>本科目では、授業テーマとしての科学技術だけでなく、技能として科学技術を活用する力も学習していく。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション「科学と社会 科学的知識だけで社会問題は解決するか？」</p> <p>第2回 論理的なディスカッション・ディベートの手法</p> <p>第3回 環境問題とエネルギー 持続可能な開発とは何か(1)</p> <p>第4回 環境問題とエネルギー 持続可能な開発とは何か(2)</p> <p>第5回 情報の検索の仕方を理解する(1)インターネットを用いた情報検索</p> <p>第6回 情報の検索の仕方を理解する(2)図書館を用いた情報検索</p> <p>第7回 情報の検索の仕方を理解する(3)文献の参照と引用</p> <p>第8回 宇宙開発と関連技術 宇宙進出の意義と社会的課題(1)</p> <p>第9回 宇宙開発と関連技術 宇宙進出の意義と社会的課題(2)</p> <p>第10回 論理を構築する(1)論理的な考え方を考える</p> <p>第11回 論理を構築する(2)主張を文章化する</p> <p>第12回 AI・クローン・倫理「人間である」とはどういうことか(1)</p> <p>第13回 AI・クローン・倫理「人間である」とはどういうことか(2)</p> <p>第14回 AI・クローン・倫理「人間である」とはどういうことか(3)</p> <p>第15回 社会の中の科学 自己の学びとの関連</p>		
授業方法	<p>本科目では、科学技術に関する基本的な知識および情報活用に関する手法について講義を行うとともに、科学技術に関わる具体的なテーマについて、学んだ手法を活用しながらディベートを繰り返すことを通じて、学術的な議論に関するリテラシーを身につける。</p>		
アクティブ ラーニングの視点	<p>情報活用に関する講義では、実際に自らの手を動かして情報検索・収集を体験することにより、主体的に技能を習得する。</p> <p>ディベート活動の中では、準備段階でグループワークを通じて、他の学生と意見交換し、対立するグループの反論も想定しながら主張を組み立てるとともに、本番のディベート時には対立グループへの具体的な反論を行うとともに、他のグループのディベートを傍聴し、双方の意見を踏まえて判定を下す。</p>		
授業外学習	<p>授業だけではテーマに関する情報は十分ではないため、授業外においても積極的に情報収集を行ってほしい。とくに、ディベート回の前には、グループでの入念な準備を推奨する。</p> <p>あわせて、日常的なニュースの中で関連する内容についてどのような話題があるのか、普段から意識しておくことが望ましい。</p>		
テキスト	<p>授業内で適宜資料を配布する。</p>		
参考書	<p>必要に応じて適宜指示する。</p>		
評価方法	<p>授業全体でのワーク・ディスカッション・ディベートへの参加度 60%、 期末レポート 40%</p>		
実務経験のある 教員による授業			